

会員の設備に対する認識を深め、参加者の懇親を深める目的で、今まで県内の施設見学会を行い多大な成果を上げてきた。今年度は当協会の創立20周年記念事業として、法人化を取得したのを機に「特別企画施設見学会」と銘打って旅行気分を味わいながらの施設見学会を企画することとなった。

見学可能な数件の中から一泊二日で時間が有効に使える東京の施設となり、松下電工様のご好意により、松下電工東京本社ビルの施設見学会となった。

秋風が心地よい快晴の中、平成15年11月20日(木)～21日(金)、参加者25名(正会員12名、協会事務局2名、賛助会員8名、松下電工3名)は協会初めての本土での施設見学会となった。

東京本社ビルのある場所は、旧国鉄汐留貨物駅のターミナル跡地で日本の鉄道発祥の地として名を馳せた所である。羽田空港から東京本社ビルに到着し、昼食をする部屋は地上24階の特別会議室であった。24階(地上100m)からは東京の超高層ビルが見渡せ沖縄では味わえない大都会での食事となった。食後、日程どおり施設見学会となった。



「ビルごと省エネルギー」「ビルごとショールーム」「ビルごと照明器具」のコンセプトで建てられた東京本社ビルは、設備設計に携わる物にとって、全てが大変興味のあるものであった。

地下2階から地上2階までの4フロアに展示された商品の多さに驚嘆しながら、ガイドから懇切丁寧に商品説明を受けた。2層吹抜空間を介して二つのフロアで一つのユニットが構成されたオフィスは発想が斬新であるだけでなく、究極までに省エネ、易操作性が追及された照明、空調設備、通信、情報設備等を実際に体験することが出来た。

ガラスカーテンウォールとなっている外装は、霞ヶ関側からの視認性を考慮したとのことであった。特に夜のビル外観のライトアップをOHPで見ることが出来たが最新多彩で照明器具メーカーならではの景観演出であった。



松下電工様東京本社ビルの見学を終え向かったのは、江戸時代の町並みを再現した大江戸博物館であった。江戸時代の建築、文化、風俗、政治、歴史等の全てが分かりやすく展示されていた。最新超高層ビルの見学後ゆえに、木造建築の温かみが更に感じられた。

大江戸博物館を後にして、宿泊地、夕食会場のある横浜伊勢崎町へ東京湾岸の高速道路をバスは南下した。夕食は有名な横浜中華街の中華料理店で行われ落ち着いた雰囲気の中でお酒を飲みながら参加者が懇親を深めることができた。

翌日の21日(金)那覇空港に着き午後5時全日程を終了し解散した。

#### 松下電工東京本社ビル概要

所在地/東京都港区東新橋1-5-1

建築主/松下電工株式会社

設計監理建築/日本設計 設備/日建設計

延床面積/47274.49㎡

階数/地下4階 地上24階 塔屋1階

高さ/119.85m

工期/平成12年3月～平成15年1月



一般社団法人 沖縄県設備設計事務所協会